



文化・芸術に親しみ、人生を豊かに。

11月3日は文化の日

文化の日は、「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨としています。

11月3日は、もともとは明治天皇の誕生日を祝う天長節という祝日でした。それがいったん廃止され昭和初期に明治節という名で復活しましたが、敗戦とともにGHQの意向により再び廃止となりました。しかしこの日を祝日として残したいという日本政府の強い思いがあって、平和と文化を重視している日本国憲法が公布された11月3日を、1948年(昭和23年)に「文化の日」として祝日に決めました。



おおむら秋まつり

同時開催

ご当地自慢グルメフェア

郷土芸能披露は勇壮で華やかな舞いの「黒丸踊」、迫力のある「水主町ココロデシヨ」、その他三城子ども太鼓やダンスバトルなども楽しみです。グルメフェアでは市内・県内38店舗の食が勢ぞろい！

11月3日(日) 9:40~15:30
さくらホール駐車場



問合せ

秋まつり ☎53-4222(大村商工会議所)

グルメフェア ☎52-3605(観光コンベンション協会)

11月の歳時記



11月は霜月(しもつき)と呼ばれます。霜が降りる頃であることから、「霜月」と呼ばれるようになったというのが一般的のようです。

10月21日~11月7日 秋土用(あきどよう)

土用というと夏を思い浮かべる方も多いと思いますが、土用は各季節にあります。

秋土用は立冬までの18日間です。土用の期間は、土を司る土公神(どくしん・どくじん)という神様が支配するといわれ、土を動かしてはいけないとされてきました。今でも、家などを建築する際、土を掘り起こしたりする基礎工事などは土用の期間をはずす方が多いようです。

11月8日 立冬(りっとう)

霜降(そうこう)から数えて15日目頃。立冬とは、冬の始まりのこと。

「立」には新しい季節になるという意味があり、立春、立夏、立秋と並んで季節の大きな節目です。

朝夕冷えみ、日中の陽射しも弱まって来て、冬が近いことを感じさせる頃。木枯らし1号や初雪の便りも届き始めます。立冬を過ぎると、初霜が降りて冬の佇まいへと変わります。この日から立春の前日までが暦の上での冬です。



11月22日 小雪(しょうせつ)

立冬から数えて15日目ごろ。

北国から雪の便りが届く頃ですが、まだ本格的な冬の訪れではありません。雪といってもさほど多くないことから、小雪といわれたものだそうです。陽射しが弱くなり紅葉が散り始めるころで、いちじくや柑橘類は黄色く色づいてきます。次第に冷え込みが厳しくなってきますので、冬の備えは整えておきましょう。

お歳暮の準備をする目安となります。「こゆき」と、間違えて読まないようにしましょう。



11月15日 七五三(しちごさん)

数え年で、男の子は5歳(地方によっては3歳も)、女の子は3歳と7歳に、晴れ着を着て神社・氏神に参拝して、その年まで無事成長したことを感謝し、これから将来の幸福と長寿をお祈りする行事。

もともとは宮中や公家の行事でしたが、江戸時代には一般的に広く行われるようになりました。3歳の髪置き(かみおき)の儀、5歳の袴着(はかまぎ)の儀、7歳の帯解き(おびとき)の儀の儀式が由来となっています。

季節の言葉

小春日和(こはるびより)

晩秋から初冬の頃の暖かく穏やかな日のこと。春の気候を示す言葉として、誤って使うことが多いので気をつけましょう。



時雨(しぐれ)

晩秋から初冬にかけて降る通り雨のこと。



木枯らし・凩

晩秋から初冬にかけて吹く、冷たくやや強い風。気象的には10月半ばから11月末にかけて西高東低の冬型の気圧配置の時、最大風速8m/秒以上の西北西から北向きの風のことで。

